

2019年9月20日(金)

老球の細道501号

強いものが勝つのではなく勝ったから強い、

会津バスケットボール協会 室井 富仁

バスケットボールが誕生した初期の頃、雨漏りする体育館でディフェンスするのに滑らないように守るゾーンディフェンスが誕生した。5人がゴールの近くで守るゾーンディフェンスはなかなか攻めることができなかった。その後ゾーンディフェンスが流行し、シュートを1本決めたチームはボールを失わないようにするため、試合が終わるまで延々とパスを回すチームも現れたという。

そのようなバスケットボールのゲームは想像しただけでも面白くないことはわかる。ここでルール改正が起こり、10秒以内にボールをバックコートからフロントコートに運ばなければならない「10秒ルール」が作られてコートにセンターラインが引かれた。それでもなかなかシュートをしないチームがなくならなかったため、遂に24秒でシュートをしなければならない「24秒ルール」が制定され現在に到る。

このルール改正によって、バスケットボールのゲームは革命的な進化を成し遂げた。ゲーム内容がアップテンポになり、色々な面でスピード化と変化が起こった。ガードプレイヤーの超スピード化、アウトサイドシュートの多用化(セットオフenseの時間不足)、センターのビックマンもスピード化等々で、運動能力が一段と必要なスポーツに激変したのである。そのために、本場アメリカでは運動能力に秀でた黒人選手が急激に増加した。もし、「24秒ルール」が導入されなければ黒人選手は野球、アメリカンフットボールに分散しただろうと識者は語っている。

その黒人選手が圧倒的優位を誇るアメリカバスケットボールNBAの若手スーパースター選手で固めた「アメリカ・ドリームチーム」が、先日中国で行われた「FIBAワールドカップ2019」でファイナル4にも入れず過去最低の7位という成績で終わってしまった。コーチングスタッフはNBAとNCAA最高のスタッフをそろえたにもかかわらずにだ。決勝は地味な選手とNBA以外の多くの選手で成り立つスペインとアルゼンチン。結果的にスペインが優勝したが、どちらのチームにも黒人の選手がいない近年まれにみる珍しい世界一決定戦となった。

今までバスケットボールは黒人選手の驚異的な運動能力と抜群のボールハンドリングが世界を席卷していた。しかし、今回の大会を観戦して感じたのはスピードよりコンタクトに強いこと、アウトサイドシュートの決定力、チームプレイの徹底、強固なディフェンス力などが上位に残ったチームの勝因になっていた。まさに地味な力の勝利である。

今回「史上最強」を自らうたった日本代表はワールドカップ、世界選手権を通じて全敗の「史上最低」の成績で終わってしまった。日本バスケットボール協会はこの事実はどう向き合い、今後の東京五輪、そしてその後の世界進出にどう準備していくのだろうか。

バスケットボールは知名度や過去の実績(世界ランク)で試合結果が決定するわけではない。試合はやってみないとわからない。「アップセット(番狂わせ)」を今回ワールドカップで観たことは、現在弱いと思われる、または自分たちで勝手に弱いと思い込んでいるチームにとっては多いに勇気づけられたことだろう。ほかのチームにできたことはわがチームにも可能である。